

温泉旅館が宿経営指南

あわら温泉旅館のグランディア芳泉（あわら市舟津、山口透社長）は昨年12月から、宿泊施設の開業や運営を支援する新事業を始めた。不動産を活用した宿泊事業への関心の高まりや既存旅館の後継者問題を捉え、それぞれに応じた施設形態の提案から収支計画の試算、運営指導までをトータルサポートする。同社の山口高澄常務（38）は「これまで培ったノウハウやブランド力を生かし、地域を盛り上げていくことに一役買っていきたい」と話す。（児島崇之）

グランディア芳泉（あわら）新事業

同社はこれまでに、坂井市三国町の古民家を改装して2024年8月に開業した複合商業施設に参画。ゲストハウス「恐竜古民家ホテル だいな荘」のほか、カフェや雑貨店の運営にも携わり、客室づくりや宣伝ノウハウを生かして地域の活性化につなげている。

厚生労働省の衛生行政報告例によると、県内におけるゲストハウスなどの簡易宿所数は、19年度の416件から24年度は541件に増加。空き家などを活用した新たな宿泊施設が増えている一方で、旅館・ホテル数は同期間で949件から877件に減少している。

だいな荘の取り組みも転機に「新幹線が開通した福井が生まれ変わるチャンス」（山口常務）と今回の新事業を構想。県内トップクラスの温泉旅館としてのサービス力をはじめ、人材教育、プロモーション、客室づくり、経営、地域との連携など、旅館が持つ多様なノウハウを強みに、地域活性化

開業や収支試算「ノウハウ活用」

に向けた取り組みを本格的に展開することを決めた。

土地や空き家などを活用した宿泊施設の開業、既存施設の運営委託など、施設規模は問わず「宿」に関する幅広い相談が対象。具体的な内容としては、依頼主の資産活用や空き家に最適な宿泊施設タイプの提案、改修計画や事業収支計画の試算、宿泊施設運営の受託などを想定し、人材の投入も含め、運営委託契約や賃貸契約など、相談に応じた形態での支援を提供する。

12月から同社ホームページ内に新事業の専用バナーを設けた。山口常務は「業界では後継者不足が課題で、日本の旅館文化を残していくための事業にもしたい」と強調。さまざまな価格帯の宿泊施設整備は福井の活性化や魅力発信にも欠かせないとし「地域に育てていただいた旅館として、福井あわらの発展や魅力発信に貢献していきたい」と意気込んだ。



宿泊施設の開業や運営を支援する新事業について説明する山口常務
「あわら市のグランディア芳泉」